

## 1. 評価報告概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

## 【評価実施概要】

事業所番号	1970101315
法人名	社会福祉法人千歳会
事業所名	グループホーム青沼
所在地	〒 400-0867 山梨県甲府市青沼2丁目23番1号 電話番号 055-233-5158

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	山梨県甲府市北新1丁目2-12号		
訪問調査日	平成19年11月29日	評価確定日	平成19年12月26日

## 【情報提供票より】平成19年10月1日 事業所記入

## (1) 組織概要

開設年月日	平成15年10月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	16 人
職員数	13人	常勤	12人 非常勤 1人 常勤換算 11.9人

## (2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	2 階建ての 0 ~ 0 階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	61,000 円	
敷 金	有( )	■無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	□有( ) ■無	有りの場合 償却の有無	□有 □無	
食材料費	朝食	0 円	昼食	0 円
	夕食	0 円	おやつ	0 円
	または1日当たり		1200 円	

## (4) 利用者の概要 平成19年10月1日 現在

利用者人数	16 名	男性	4 名	女性	12 名
要介護1	2 名	要介護2	6 名		
要介護3	6 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 78 歳	最低	70 歳	最高	87 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	城東病院、今沢歯科医院
---------	-------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】作成日 平成19年12月1日

市外に大型老人施設を運営している法人を本部としているグループホームである。鉄骨2階建て、2ユニットの当ホームは広い道路に面した市街地にある。1階7名、2階9名の定員となっているが、利用者すべてに同じ質の介護サービスを提供できるようにとの管理者の思いから、月1-3回程度1階、2階の別なく職員のローテーションをくんでいる。自己評価に厳しく、より質の高い介護を目指した取り組みがなされている。又地域で行われる「認知症普及啓発講座」で事例発表を行うなどの啓発も積極的に行っている。利用者と職員の関係も朗らかである。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回の評価の改善点は真摯に受け止め、運営推進会議メンバーの協力、地域包括支援センター協力の下に地域との交流、地域への啓発など積極的におこなわれている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) ① 管理者が作成した自己評価表を職員全員が閲覧し、それぞれの意見や気づきを話し合い自己評価に生かす取り組みをしている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 地域包括支援センター長、自治会長、近隣住民、家族代表等を含め8名のメンバーにより構成されている。討議内容は地域への啓発、外部評価を踏まえての改善策、事業報告などである。その中で管理者及び介護支援専門員により地域での「認知症普及啓発講座」で事例発表などを行い地域へ還元することにも積極的に努めている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 管理者は、家族と気軽に話ができる関係を築くことにより、意見や苦情、不安を聞き、それらを職員と共に共有し日々のサービスに生かしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 運営推進会議のメンバーでもある自治会長の協力により、ホーム便りの地域への回覧、地区運動会への参加等積極的に行われている。又ホームでの行事の折には近隣の方々が手伝いに来てくださったり、近くの商店とは顔馴染の関係が出来ている。その他外部の訪問者も多く、Xジャパンの「とし」さんの訪問もあった。

## 2. 調査報告書

事業所名：グループホーム青沼

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	人間愛に基づき最大の努力で最良の介護を提供することを理念として取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関掲示板、職員事務コーナーに掲示されており、カンファレンスの折、確認して日々の実践に生かしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入しており、地区運動会や、お祭りには参加している。ホームの夏祭り等の行事には近隣の方が参加して、手伝って頂くなど地域との交流は行われている。自治会長にも多大な協力をいただいている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価、外部評価を実施することにより、具体的な改善点を知ることが出来、それらを生かした取り組みがなされている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、地域包括支援センター長を座長とし、評価結果を踏まえての取り組み、利用者の現状や実際のサービスの取り組み方などの話し合いを持ち、よりよいサービスの向上に生かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	甲府市介護サービス事業者連絡会に加入しており、市主催の各種事業に積極的に参加する中で、管理者は認知症相談員としても参加している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	年4回発行のホーム便りと共に、金銭出納も領収書と共に家族のもとに送付し、暮らし振りを報告している。また通院記録、日々の様子などを克明に記録する事により、家族が訪問された折、説明、報告がなされている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が訪問した折、管理者と気軽に話せる関係を築くことにより、意見、苦情を聞き、それらを運営に生かしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	2ユニットではあるが、双方とも同質のサービス提供をするためにも、職員が入居者全員と顔馴染になれるように月1-3回程度1階2階のローテーションを組み対応している。利用者の混乱は見られない。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム協会や、母体の花菱荘等の研修会を職員が交代で受講し、資格取得をするための支援をおこなっている。研修会の内容については、カンファレンスの折に報告、又全職員が閲覧するようにして認印により確認している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県GHの主催の研修会に参加しているが、具体的な話し合い、情報交換などは行われていない。	○	インターネットなどを利用しての交流を視野に入れての取り組みを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所を希望された方には、ホームの雰囲気に馴染めるかどうかの判断をしてもらうための体験入所を行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	戦争の話などそれぞれ本人の持っている世界を否定せず向き合って話をきいている。その他料理、配膳、後片づけ、など出来ることは職員と共に行うことにより、良い関係が作られている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自分の気持ちを抑えてしまう方に対しては声掛けを多くするなどし、一人ひとりの意向や、思いに配慮した対応がなされている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族の意見を聞き、カンファレンスの折にその意見を踏まえて、職員の意見を聞き介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとの見直しが基本であるが、その時々状況の変化により、本人、家族との話し合いのもと柔軟に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の希望に添って、柔軟な対応をするための準備はある。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	運営推進会議のメンバーである近くの病院をかかりつけ医としており、迅速且つ適切な対応を受けることが出来る。その他の通院に対しても、ホームで全面的な支援をおこなっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期の受け入れは体制が整っていないため行っていない。本人、家族には説明している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	会議、打ち合わせの折りにふれ、利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応の徹底に努めている。個人情報の取り扱いについては、採用時誓約書を書いてもらっている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の暮らし方は、散歩、近所の商店への買い物、読書をする人など、本人の意向に沿った支援が行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備から配膳、片付けを利用者と職員とが会話をしながら、それぞれの能力に応じて行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	現在は週3回の入浴となっている。入浴を拒む人への働きかけはその時々状況により工夫しながら支援を行っている。	○	一人ひとりの希望に添った入浴支援を行うことが出来ることを期待したい。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	読書、編物、草取り、野菜作り、などを職員も一緒に教えてもらいながら、それぞれの趣味や楽しみごとが出来するための支援が行われている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的には近くの神社までの散歩、買い物の支援を希望にそって行っている。その他苺狩り、初詣、花見、外食など季節折々の外出支援が行われている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	広い道路に面しているため、門扉には施錠しているが、玄関には施錠していない。但し日曜日は施錠している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアル、職員連絡網、備蓄食料が用意されている。又毎年出火場所を想定して利用者と共に、年1回隣接する駐車場までの避難訓練をおこなっている。		地域消防団の協力をもらえるような働きかけを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員に栄養士資格者が2名おり、栄養バランス、水分量を記録することにより、適切な支援が行われている。食事も一人ひとりの能力に応じたものが提供されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	南向きに建てられていて建物内部は明るい。居間、台所、食堂が一体となっていて広々としており、食事の支度の様子も見える中で、香りたつ煮物のにおいが食欲を誘う。廊下は回廊になっていて、コーナーにはちょっと休むためのソファが用意されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	箆箆とベッドは備え付けの物が使われているが、その他はそれぞれ本人の好みにより、生活暦がわかるような設えとなっている。		